

# スキーと病院経営

(社会医療法人緑社会 金田病院 理事長・院長・岡山県)

金田 道弘



5月の連休に、恒例の春スキー合宿が長野県白馬村八方尾根スキー場で行われた。メンバーは、岡山県スキー連盟理事長はじめ指導員8名と私を含む1級3名の計11名。その内1名は岡山県にただ1人のプロスキーヤー。平均スキー技術レベルは相当高いが、平均年齢も約50歳とやや高めだ。3台の車に分乗し岡山を22時に出発、片道600キロを10時間かけて運転すると、真白い残雪を纏った早朝の北アルプスの美しい峰々が私たちをあたたかく迎えてくれる。

定宿は、1泊2食付8,500円、バス・トイレ無し。朝食7時、スタート8時。ゴンドラとリフトを乗り継いで、白馬三山が眼前に迫る黒菱ゲレンデ標高1,600mに到着8時30分。それから午後4時まで数回の休憩を挟んで特訓が続く。お互いの滑りをビデオカメラで撮影し、午後6時からの夕食後、部屋に集まりそれを見ながらプロスキーヤーから技術指導を約3時間受ける。自分のスキー技術がいかに未熟かを思い知らされることになるが、厳しく的確な指導はとてもありがたいし、心地良い。



2011-2012シーズン、私は初めてコブ斜面に挑戦した。連続したコブ斜面を破綻せずに滑り切る秘訣、それは目前のコブを見るのではなく、少なくとも3つ4つ先の遠くのコブを見て視線を安定させることだとプロスキーヤーから学んだ。病院経営に当てはめてみると、直近の診療報酬改定だけに目を奪われるのではなく、2025年における自院の立ち位置・着地点をしっかり見極めてブレないことこそ肝要、ととれる。

理事長歴は26年・病院長歴は14年に過ぎないが、スキー歴は51年と半世紀を超え、正真正銘の生涯スポーツになった。57歳の今もおかげで共に現役でいられることはありがたく感謝している。病院経営もスキー技術の習得も、時間の限られた人生における自分との、真剣勝負の闘いだと思う。継続するには、適度な緊張感と共に、過程や結果のすべてに感謝しすべてを楽しんでしまう逞しさも必要だ。失敗できるのは挑戦している証拠だ、と最近思えるようになってきた。私の生涯目標は、八方尾根黒菱ゲレンデのコブ斜面制覇だ。